

「少年の主張」弟子屈大会

平成26年度第34回「少年の主張」弟子屈大会が5月25日に弟子屈町公民館で開催され

町内各小中学校の児童生徒の代表が、目で見えて感じたことや体験して思ったことなどを、会場に訪れた多くの方々に語りかけました。

最優秀賞には中学生の部で鈴木あかりさん(弟子屈中学校1年)、小学生の部で三田村優音君(昭栄小学校6年)が、それぞれ選ばれました。

中学生の部最優秀賞の鈴木さんは

7月29日に釧路市生涯学習センターで開催される「少年の主張釧路総合振興局地区大会」に出場します。

小学生の部 最優秀賞



ぼくが『松浦武四郎』から学んだこと
昭栄小学校6年
三田村 優音君

「テシカ」、これは今からおおよそ150年前に作られた北海道、昔の蝦夷地の地図に記された、この辺りの地名です。おそらく、皆さんは、これが「弟子屈」を意味していること、そしてアイヌ語だろうと想像すると思います。

でも僕は、北海道の地名や市町村の名前がアイヌ語から来ているということも知らなかったし、また、なぜそうだったのかも不思議に思いました。北海道には、大昔から、そして今でもアイヌ民族の方たちが住んでいます。でも、それだけが理由なのでしょうか。

実はここに、ある人物の行動が大きく関係していることがわかりました。その人物こそが、「松浦武四郎」なのです。僕は、4月になって担任の先生から松浦武四郎の副読本をもらい、北海道の地名に関する色々なことがわかったとともに、それ以上に武四郎という人物の素晴らしさにとっても驚きました。武四郎はすごい、僕も武四郎のような人物になりたい、その本は僕にそう思わせてくれたのです。

現在、北海道には1800くらいの市町村がありますが、その半分以上が内陸にあり

「少年の主張に出てみませんか？」
家庭訪問の時、担任の先生にそう提案されました。

私は、その時、正直「嫌だ、やりたくない」そう思っていました。

小学校5年生の時、私はバレー少年団に興味を持ち、入部しました。ですが、思い描いていた練習との違いに悩み、コーチや父兄、少年団の仲間と何度も相談した結果、最終的に私は、やめる道を選びました。

サッカーや野球、吹奏楽、バレーなど、他の皆には頑張っているものがあるのに、自分には何もなくなってしまっただけで、皆と話していてもついていけず、すごくさびしかったです。

そのことがきっかけで、それからしばらく何事にも挑戦しなくなっていました。しかし、今よく考えてみると、これからの人生ですべて色々な事をさげ続けていけば、前と同じ事を繰り返しているだけだし、自分の将来にも近づけない、そう思い、私は「まずは、やってみよう！チャレンジして頑張ってみよう！」と、少年の主張に出ることを決めました。

小さな事かもしれないけれど、私はこれ

中学生の部 最優秀賞



チャレンジしよう！
弟子屈中学校1年
鈴木 あかりさん

「少年の主張に出てみませんか？」
家庭訪問の時、担任の先生にそう提案されました。

私は、その時、正直「嫌だ、やりたくない」そう思っていました。

小学校5年生の時、私はバレー少年団に興味を持ち、入部しました。ですが、思い描いていた練習との違いに悩み、コーチや父兄、少年団の仲間と何度も相談した結果、最終的に私は、やめる道を選びました。

サッカーや野球、吹奏楽、バレーなど、他の皆には頑張っているものがあるのに、自分には何もなくなってしまっただけで、皆と話していてもついていけず、すごくさびしかったです。

そのことがきっかけで、それからしばらく何事にも挑戦しなくなっていました。しかし、今よく考えてみると、これからの人生ですべて色々な事をさげ続けていけば、前と同じ事を繰り返しているだけだし、自分の将来にも近づけない、そう思い、私は「まずは、やってみよう！チャレンジして頑張ってみよう！」と、少年の主張に出ることを決めました。

小さな事かもしれないけれど、私はこれ

ます。その内陸を、武四郎は、6回にもわたって北海道入りし、まだ誰も知らない内陸部を徒歩で旅をして、すべてのアイヌ集落に立ち寄り調べたわけですから、その「意志の強さ」は半端ではないと思います。

僕はまだ小学6年ですが、今でも少し難しいことや大変なことに挑戦したり、やり始めたからには最後までがんばろうと思っでやっています。でも将来、武四郎のようにここまで大がかりなことを根気強くやりとげられる人間になれるのかと言われたら、はつきりとなれるとは言い切れません。でも、僕の中で明らかにそうなりたいと思う気持ちがありました。

さて、北海道の地名にアイヌ語が多いのは、武四郎が根気強く歩き回ったからだけではありません。僕は、武四郎の「どんな相手にも平等に接する」という人格が残したものだと思っています。

例えば、武四郎は訪れたアイヌの集落ですぐには立ち去っていません。集落ごとに、アイヌの人たちと十分に時間をとってコミュニケーションをとり、アイヌ語やアイヌ文化を学ぶことはもちろん、同じ食べ物を食べ、同じ屋根の下で眠りました。とにかくアイヌの人たちと同じ生活をする心をかけ、常に平等に接していました。そして、地図に地名を書き込む時には、もともとアイヌの人たちが呼んでいた呼び名を尊重し、地名を書き込んでいったのです。

後の時代に、僕たちの祖先がたぶん北海道に移り住み、地名に漢字を当てはめる時に少しその

から行われる「漢字検定」にも挑戦しようと考えています。今までも少し興味を持っていましたが、一步を踏み出せませんでした。

それは、「失敗したらどうしよう…」と考えていたからです。でも、今回母に「漢字検定を受けてみたいんだけど」と相談すると、「やってみなさい。失敗してもまた挑戦すればいいじゃない」と言ってくれました。そう言われた時、私は「よし、まずやってみてダメでももう一度チャレンジしよう！」と思ひ、挑戦することを決めました。

私が今まで経験してきた事の中で学んだ事は、「まず、チャレンジする事」です。

そして、チャレンジする事は、自分の持っている夢を叶えるために必要な事です。

「ぼくは、大人になったら世界一のサッカー選手になりたいというよりなる。世界一になるには、世界一練習しないとダメだ。だから今ぼくは頑張っている。今はヘタだけれど、がんばって必ず世界一になる。」この言葉は、サッカーで活躍している本田圭佑選手が子供の頃書いた作文です。

私は、この作文と同じ様に将来の夢を叶えるために必要な事だと思っています。

なぜなら、子供のうちに出来る精一杯のことを身につけていないと、叶う夢も叶わなくなってしまうからです。

私の将来の夢は、小学校の先生になることです。小学生の頃、私には憧れの先生がいました。

その先生に「小学校の先生になるには、どんな事をしたらいいですか？」と聞くと、「勉強は諦めずに頑張ること、あとは何事にもチャレンジ精神を持つ事だね」と教えてく

小学生の部 審査結果(敬称略)

- 最優秀賞 「ぼくが『松浦武四郎』から学んだこと」
(昭栄小6年 三田村 優音)
- 優秀賞 「わが町の自慢を考えて」
(奥春別小5年 保坂 凱風)
- 優良賞 「身だしなみ」
(美留和小5年 藤井 直太郎)
- 参加奨励賞 「踏み出した一歩」
(弟子屈小6年 須藤 美友)
- 参加奨励賞 「待つことの大切さ」
(弟子屈小6年 嶋津 希穂)
- 参加奨励賞 「町の良い所さがし」
(川湯小6年 濱岡 菜月)
- 参加奨励賞 「私とゲーム」
(和琴小5年 本間 由奈)



中学生の部 審査結果(敬称略)

- 最優秀賞 「チャレンジしよう！」
(弟子屈中1年 鈴木 あかり)
- 優秀賞 「命の大切さ」
(弟子屈中1年 坂上 愛美)
- 優良賞 「私の夢」
(弟子屈中2年 山本 彩香)
- 参加奨励賞 「心おどるバレエを続けて」
(弟子屈中3年 田口 美音)
- 参加奨励賞 「信じられるものを求めて」
(弟子屈中3年 高橋 志歩)
- 参加奨励賞 「今の自分と将来の夢」
(川湯中3年 瀬原 彩花)
- 参加奨励賞 「自分に自信を持つために」
(弟子屈中2年 阿部 実央子)
- 参加奨励賞 「夢の実現のために」
(川湯中2年 中嶋 菜月)
- 参加奨励賞 「私の姉」
(川湯中1年 下谷 愛美)



れました。

それから私は、授業でたくさん発言したり、学級三役に立候補したり、難しい問題も頑張って解くなど、夢のために日々努力しています。

自分の目指す人生の目的地に到着できるように今のうちにできる事をしっかりとやって、自分の夢を実現させるために今後努力を続けていきたいです。